

琉球大学学術リポジトリ

琉球大学における留学生支援体制と留学生の満足度：
「帰国留学生アンケート調査」及び「留学生アンケート調査」を基に

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学留学生センター 公開日: 2008-07-03 キーワード (Ja): 留学生支援体制, 元留学生, 満足度, 留学の効果 キーワード (En): Support systems for international students, Former international students, Degrees of satisfaction, Effectiveness of studies in Japan 作成者: 金城, かおり, Kinjo, Kaori メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/6568 |

琉球大学における留学生支援体制と留学生の満足度

— 「帰国留学生アンケート調査」及び「留学生アンケート調査」を基に—

金 城 かおり

要 旨

本研究では、琉球大学で勉学・研究した元留学生及び現在在籍中の留学生を対象に実施したアンケート調査の結果を基に、大学における留学生の学習環境や支援活動に関する現状と問題点を明らかにすることを目的としている。アンケートでは、本学での研究や留学生活に対する満足度、留学中の問題点や相談相手、教職員の対応や大学による留学生支援についての満足度、さらに留学の効果等について調査・分析し、琉球大学における留学生支援体制の今後の課題について考察する。

キーワード：留学生支援体制、元留学生、満足度、留学の効果

1. 調査の目的

日本における留学生数は、平成14年5月現在で95,550人へのぼり、1983年に提言された「留学生10万人計画」はほぼ達成されたことになる。日本の高等教育機関では、10万人計画達成後も留学生受入れ拡大、留学生への教育の質の向上、大学の個性化等を目指し、留学生受入れ体制の更なる拡充に取り組んでいる。

琉球大学における留学生受入れは、平成15年5月現在で41カ国228人である。これまでの留学生数の推移は、図1に示されるとおりである。平成元年に100人を越え、その後増加してきたが、この数年はやや横ばい状態である。琉球大学では、亜熱帯地域という特性を活かした研究、また沖縄の歴史的特性を活かした研究を中心として、アジア、太平洋地域、北米、中南米等さまざまな国・地域からの留学生受入れを推進してきた。

琉球大学では、これまでも留学生への教育の向上や受入れ体制の改善を目的として、在籍する留学生を対象にアンケート調査や生活実態調査等を実施してきた。平成7年には、在学留学生を対象として生活状況に関する調査を実施した(1995)。また平成9年には、「琉球大学自己評価委員会」による在学留学生及び卒業留学生を対象とした意識調査が実施された(1997)。琉球大学における学習環境への満足度、指導

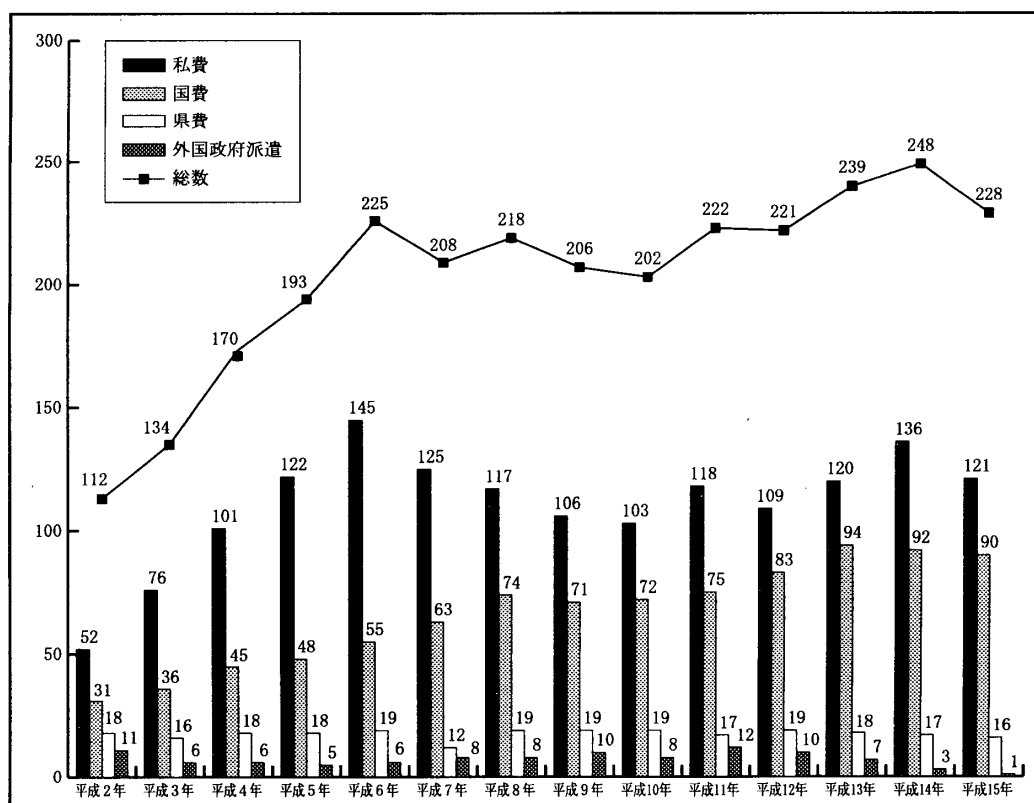


図1 外国人留学生数の推移

教官や大学職員に対する満足度、留学の効果、生活環境としての沖縄についての印象等について調査し、在学留学生98人、卒業留学生72人からの回答を得ている。このときの調査では、琉球大学の総合的な評価として、「大変満足している」及び「少し満足している」を選択した留学生の比率が、在学留学生が80.4%、卒業留学生が97.1%となっており、本学への留学経験が高く評価されている。また、留学の効果として、「本学での留学がその後の就職や昇進にどの程度役に立ったか」という質問に対しては、「大変役に立った」と「いくらか役に立った」と回答した卒業留学生がそれぞれ39.4%となっており、約8割の卒業生が留学の効果を実感していることがわかった。さらに、この調査では、留学生が望む日本の大学における留学生受入れ体制・環境の改善策として、日本留学に関する情報提供（79.2%）、奨学金数の増加（70.8%）、留学生特別コースの増設（59.7%）、宿泊施設の増加（54.2%）、日本語コースの増設（51.4%）等があげられている。琉球大学においては、この数年で留学生特別コース（2コース）増設、日本人学生寮の提供による宿泊施設増加、留学生センター設置による日本語コース増設及び情報提供等、少しずつ支援体制が改善されてきている。しかしながら、奨学金不足、宿泊施設の不足等、まだ十分改善されていない面もある。

「留学生による留学の評価」が把握できるという意味で、帰国留学生を対象としたアンケートには、大学における留学生受入れの将来像、学習環境の改善への提言として大きな意義がある。これまでに研究された帰国留学生対象の調査には、岩男・萩原(1988)が在日留学生調査の追跡調査として実施した帰国留学生アンケート調査がある。この調査では、アンケート調査に加え、卒業後も日本国内に在住している元留学生を始め、9カ国・地域に在住する元留学生への追跡面接調査も実施し、日本留学の成果と問題点について研究している。また、遠藤他(2002)による帰国アジア元留学生対象の調査では、韓国、マレーシア、台湾等の5カ国・地域において日本留学経験者と欧米留学経験者との留学効果の比較研究を実施している。大学単位の帰国留学生調査としては、松下他(2000)による金沢大学帰国留学生調査があり、留学の全体的な評価として高い評価を得ていることが明らかになっている(松下他 2000:92)。

琉球大学留学生センター及び大学評価センターでは、大学における留学生の受入れ及び支援体制の改善のための基礎資料とすることを目的として、平成15年5月に「帰国留学生アンケート」と「留学生アンケート」を実施した。この調査では、過去5年間に在籍した元留学生及び現在在籍している留学生を対象に留學生活の満足度、留學中の問題点、本学における留学生支援等に対する満足度、留學の効果等について取り上げた。

2. 調査の方法

2-1 調査票の作成

今回の調査は、前述の琉球大学自己評価委員会による在学留学生及び卒業留学生への意識調査を参考に、主に留学生受入れ体制や学習環境・留學生活への満足度に関する質問項目を中心に作成し、大学における教育や研究内容そのものに関する質問は含めていない。調査票は、日本語版と英語版を作成した。具体的な質問項目は、以下の通りである。

- 回答者の属性(国籍、性別、学部/研究科、学生身分、奨学金)
- 琉球大学への留學の動機
- 学習・研究環境に対する満足度
- 本学における留學生活全般についての満足度
- 留學生活の中で困ったこと、及びその相談相手
- 大学教官、職員、大学の留学生へのサービスについての満足度

この他に、元留学生への調査票には、留学の効果に関する内容として、現在の職業、留学経験が役立っているかについて質問項目を加えた。現在在籍している留学生へは、将来の就職の希望、留学経験が将来役立つか期待度について質問した。また協定大学からの交換留学生に関しては、交換留学の効果として、教職員や日本人学生との交流、異文化理解についての質問項目を追加した。

表1-1 国 籍

| 国 籍 | 元留学生 | 在学留学生 | 国 籍 | 元留学生 | 在学留学生 |
|---------|------|-------|------------|---------------|--------------|
| 中 国 | 20 | 22 | ガーナ | 1 | 1 |
| 韓 国 | 9 | 4 | コートジボワール | 1 | 0 |
| 台 湾 | 6 | 0 | スーダン | 0 | 1 |
| 香 港 | 1 | 0 | ロシア | 1 | 0 |
| タ イ | 15 | 6 | ポーランド | 2 | 0 |
| インドネシア | 9 | 12 | ベルギー | 1 | 0 |
| マレーシア | 5 | 1 | フランス | 4 | 2 |
| フィリピン | 2 | 1 | ポルトガル | 1 | 0 |
| バングラデシュ | 5 | 10 | アメリカ | 4 | 4 |
| インド | 2 | 0 | エクアドル | 1 | 0 |
| ヴェトナム | 1 | 1 | ドミニカ共和国 | 0 | 1 |
| モンゴル | 1 | 0 | ペルー | 1 | 1 |
| ラオス | 0 | 1 | ブラジル | 1 | 1 |
| ネパール | 0 | 2 | アルゼンチン | 0 | 1 |
| パキスタン | 1 | 0 | ニュージーランド | 1 | 0 |
| トルコ | 1 | 0 | パラオ | 1 | 0 |
| イラン | 1 | 1 | サモア | 0 | 3 |
| チュニジア | 1 | 0 | パプア・ニューギニア | 0 | 1 |
| タンザニア | 2 | 2 | 記入なし | 0 | 3 |
| エチオピア | 0 | 1 | | | |
| ケニア | 1 | 1 | 合 計 | 103 (31ヶ国) | 84 (25ヶ国) |

* 在学留学生の国籍25ヶ国には、不明（記入なし）は含まれない。

表1-2 性 別

| 性別 | 元留学生 | 在学留学生 | 計 |
|----|-------------|------------|-------------|
| | 人数 (%) | 人数 (%) | 人数 (%) |
| 男 | 59 (57.3) | 51 (60.7) | 110 (58.8) |
| 女 | 44 (42.7) | 33 (39.3) | 77 (41.2) |
| 計 | 103 (100.0) | 84 (100.0) | 187 (100.0) |

表1-3 学生身分

| 学生身分 | 元留学生 | 在学留学生 | 計 |
|-----------|-------------|------------|-------------|
| | 人数 (%) | 人数 (%) | 人数 (%) |
| 学 部 学 生 | 4 (3.9) | 7 (8.3) | 11 (5.9) |
| 大学院生 (修士) | 27 (26.2) | 34 (40.5) | 61 (32.6) |
| 大学院生 (博士) | 15 (14.6) | 28 (33.3) | 43 (23.0) |
| 研 究 生 | 9 (8.7) | 4 (4.8) | 13 (7.0) |
| 科目等履修生 | 25 (24.3) | 1 (1.2) | 26 (13.9) |
| 交 換 留 学 生 | 23 (22.3) | 10 (11.9) | 33 (17.6) |
| 計 | 103 (100.0) | 84 (100.0) | 187 (100.0) |

表1-4 専攻

| 専 攻 | 元留学生 | 在学留学生 | 計 |
|---------|-------------|------------|-------------|
| | 人数 (%) | 人数 (%) | 人数 (%) |
| 法文・人文社会 | 47 (45.6) | 19 (22.6) | 66 (35.3) |
| 教 育 | 1 (1.0) | 2 (2.4) | 3 (1.6) |
| 理 学 | 19 (18.4) | 20 (23.8) | 39 (20.9) |
| 医 学 | 8 (7.8) | 9 (10.7) | 17 (9.1) |
| 工 学 | 15 (14.6) | 22 (26.2) | 37 (19.8) |
| 農 学 | 12 (11.6) | 12 (14.3) | 24 (12.8) |
| そ の 他 | 1 (1.0) | 0 (0.0) | 1 (0.5) |
| 計 | 103 (100.0) | 84 (100.0) | 187 (100.0) |

表1-5 奨学金

| 奨学金 | 元留学生 | 在学留学生 | 計 |
|-----------|-------------|------------|-------------|
| | 人数 (%) | 人数 (%) | 人数 (%) |
| 日本政府 (国費) | 40 (38.8) | 52 (61.9) | 92 (49.2) |
| AIEJ奨学金 | 21 (20.4) | 9 (10.7) | 30 (16.0) |
| 沖縄県費 | 17 (16.5) | 1 (1.2) | 18 (9.6) |
| 自国政府 | 4 (3.9) | 1 (1.2) | 5 (2.7) |
| 私 費 | 18 (17.5) | 18 (21.4) | 36 (19.3) |
| そ の 他 | 3 (2.9) | 3 (3.6) | 6 (3.2) |
| 計 | 103 (100.0) | 84 (100.0) | 187 (100.0) |

2-2 調査方法

調査対象者は、過去5年間に琉球大学に在籍した元留学生及び現在在籍している留学生である。(アンケート調査票には「帰国留学生アンケート」としたが、国内在住者も多いことから、調査報告では「元留学生」としている。)

元留学生については、卒業後の所在等の把握が困難であり、また住所確認及び郵送によるアンケート調査を実施する十分な期間がなかったため、電子メールを利用したアンケート調査を実施した。まず平成10年度以降在籍した留学生の指導教官全員宛てに今回の調査の目的を説明した文書と帰国留学生名簿を送付し、メールアドレス提供の協力を依頼した。今回はメールアドレスが確認できた元留学生205名を対象としてアンケート調査票を送付した。調査票の回収については、電子メールによる提出の場合、送信者のメールアドレス表示によるプライバシーの問題が懸念されたため、アンケート依頼文にメールアドレスをアンケート集計に含めないことを説明した上で電子メールかファックスによる提出を依頼した。なお、電子メールによるアンケート送付の際に、メールアドレス不明による返送メールが28通あったため、実際にアンケート調査表を配信できたのは177通となった。回答数は103、回収率は58.2%で、全て電子メールによる提出だった。うち、以前に協定大学からの交換留学生として留学した回答者は23人であった。

在学留学生については、平成15年5月1日現在で在籍している228名の留学生を対象に実施した。大学院生及び研究生へのアンケート調査表は指導教官を通して、学部学生と科目等履修生には個別に送付した。アンケート調査表に返信用封筒を同封し、学生部留学生課及び各学部事務室にアンケート回収箱を設置して回収を行った。回答数は84で、回収率は36.8%であった。これには交換留学生10人からの回答が含まれる。アンケート調査は、元留学生、在学留学生対象どちらも平成15年5月に実施した。

3. 結果

3-1 属性

調査対象者の属性として、1) 国籍、2) 性別、3) 学生身分、4) 専攻、5) 奨学金を表1-1~1-5に示してある。元留学生に比べ、在学留学生の回収率がかなり低くなっているが、国籍で見れば39ヶ国・地域の留学生から回答を得ていることから、今後の留学生受入れ体制の改善を検討する上での参考資料となると思われる。

3-2 琉球大学選択の理由

「琉球大学を選択した理由」について複数回答で質問したところ、「自分の関心のある勉強ができる」が最も多く、57.1%であった。次に多かったのは「沖縄の地理的、気候的、文化的環境がよかったから」で39.6%となっている。この他に「沖縄に関連した研究をしたかった」も13.6%となっていることから、沖縄の特性を活かした環境や研究が留学生にとっての魅力の要因の1つとなっていることがわかる（図2-1）。

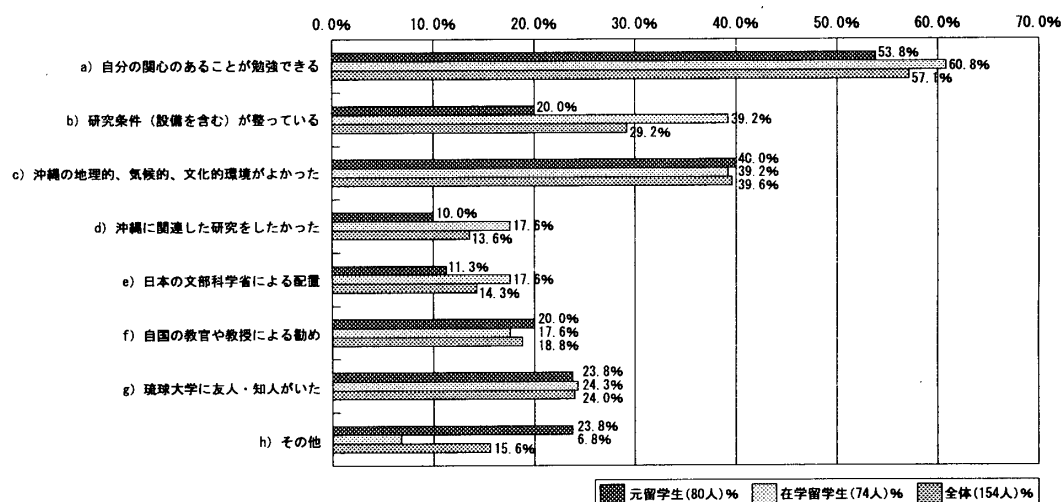


図2-1 本学の選択理由

また、「選択理由」については、交換留学生は他の留学生と比べ留学先の選択肢が少ない（あるいはない）こと、奨学金や交換プログラム等、大学決定の背景が他の留学生と異なることから、交換留学生（33人）対象の回答を別に分析した。質問の際は、選択肢の「文部科学省による配置」の代わりに「奨学金」を理由の1つに含めた。その結果、交換留学生の78.8%が「奨学金がもらえるから」と回答し、最も多くなっている。次いで、「沖縄の地理的、気候的、文化的環境」が60.6%となっている。「自国の教官や教授の勧め」が51.5%となっているのは、協定大学という関係や共同研究等による教官同士のつながりが影響していることも考えられるが、逆に1年の交換留学で学位取得を目的としていないためか、「関心のある勉強」と「研究環境」はそれぞれ30.3%、15.2%にとどまっている（図2-2）。

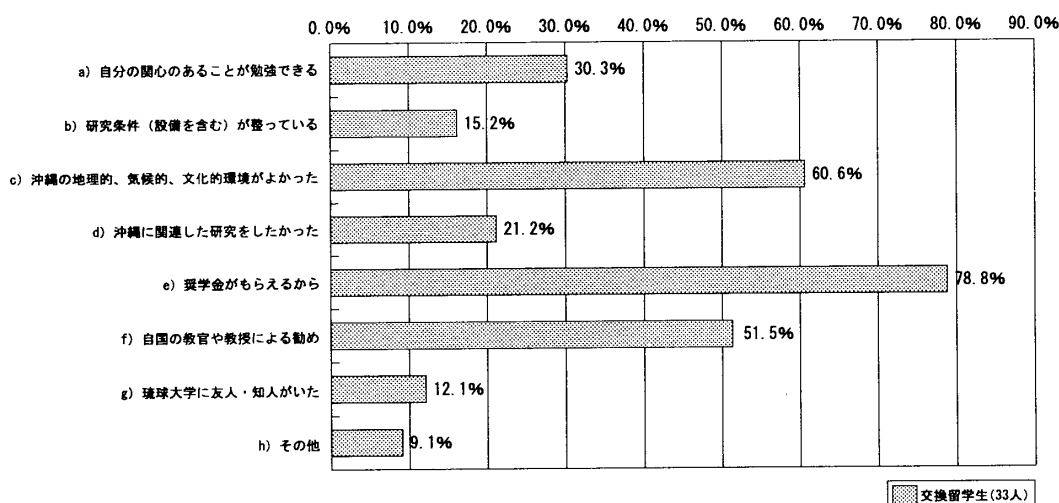


図2-2 本学選択の理由【交換留学生対象】

3-3 留学生活の問題点と相談相手

「留学生活の中での困ったこと」の問いについては、元留学生、在学留学生共に「日本語能力」が最も多く、全体で51.3%となっている。本学で平成7年に実施した留学生の生活状況に関するアンケート調査でも、約半数が「言葉の問題」と回答し、最も多かった（1995）。今回の調査では、日本語能力の問題が勉学や研究に影響しているのか、日常生活で問題となっているのかは不明なので、今後の調査では原因を明確にする必要がある。次に多かった問題点は、「勉学・研究」と「将来について（就職・進学）」で、それぞれ26.7%となっている（図3-1）。

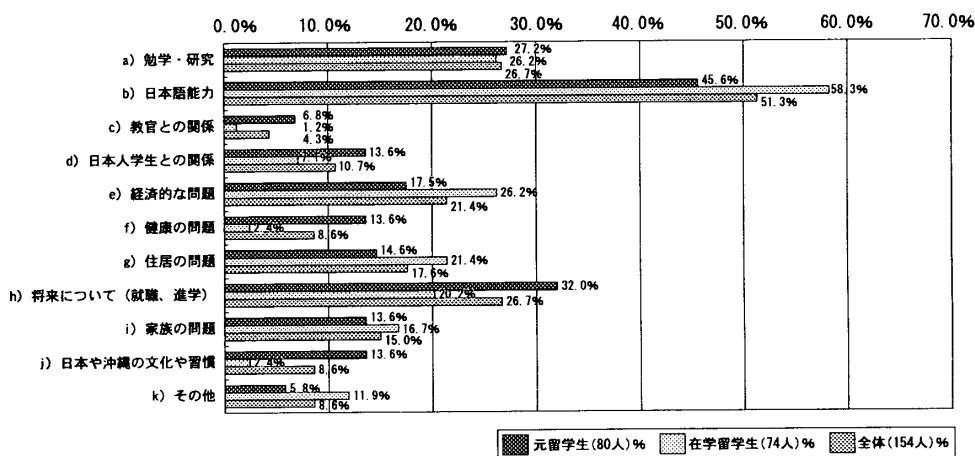


図3-1 留学生活で困ったこと

留学生活の中で「困ったときの相談相手」として、63.1%の回答者が「指導教官」をあげている。次に多かったのは「同国の留学生」で、52.9%であった。前述の留學生生活状況に関する調査では、「同国の留学生」が57.1%と最も多く、次いで「指導教官」が34.1%となっていた（1995）。今回の調査では、留學生にとって「指導教官」が学業や研究の指導だけではなく、相談相手として頼れる存在となっていることが注目される。また、前回の調査で14.3%の回答しなかった「チューター」は、今回の調査では38.5%の回答者が相談相手としてあげている。これは、「チューター制度」が留學生にとっての1つの支援体制として機能してきたことを示唆している。一方、相談相手として「留學生センター」をあげた回答者は21.2%となっている。琉球大学に留學生センターが設置されたのは平成10年で、ちょうど今回の調査対象となった過去5年間の元留學生の在学時期と重なっており、留學生にとってまだ認知度が低く、あまり利用されなかったことも考えられる（図3-2）。

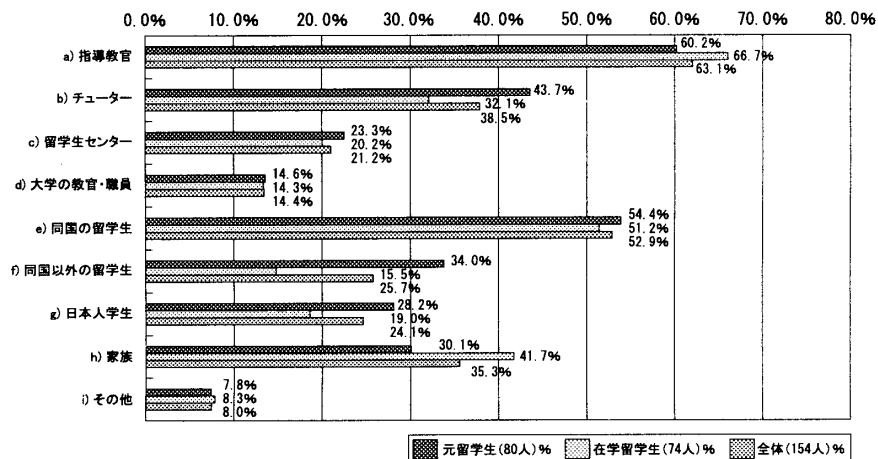


図3-2 困ったときの相談相手

3-4 留學生生活の満足度

(A) 勉学・研究のための環境

「琉球大学での勉学・研究のための環境に満足しているか（していたか）」という質問に対し、20.3%が「大変満足している」、55.1%が「満足している」と回答しており、75.4%が満足感を示している（図4-1）。《有効回答数187, $\chi^2=177.25, p<0.01$ 》

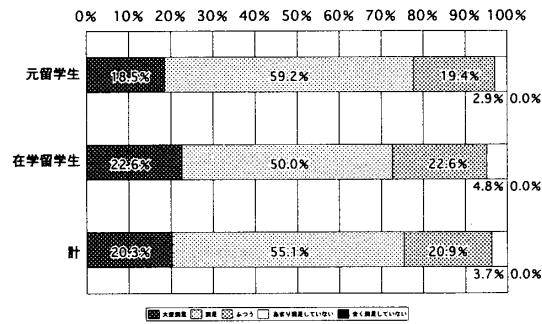


図4-1 本学での勉学・研究のための環境に対する満足度

(B) 留学生活全般

琉球大学での留学生活全般については、「大変満足している」と回答した人が23.0%、「満足している」が52.4%となっており、これも高い満足感が示されている(図4-2)。《有効回答数187, $\chi^2=159.18, p<0.01$ 》

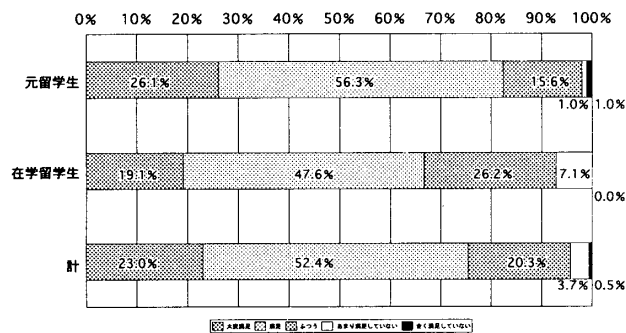


図4-2 本学での留学生活全般についての満足度

3-5 留学生へのサービス・教職員の対応

(A) 教官とのコミュニケーション

教官とのコミュニケーションに対しては、26.8%が「大変満足」、50.0%が「満足」と回答しており、76.9%が満足度を示している(図4-3)。《有効回答数186, $\chi^2=149.54, p<0.01$ 》

(B) 事務職員の対応

留学生に対する事務職員の対応については、「大変満足している」が30.0%、「満足している」が45.5%となっており、おおむね満足していることがわかる(図4-4)。《有効回答数187, $\chi^2=129.50, p<0.01$ 》

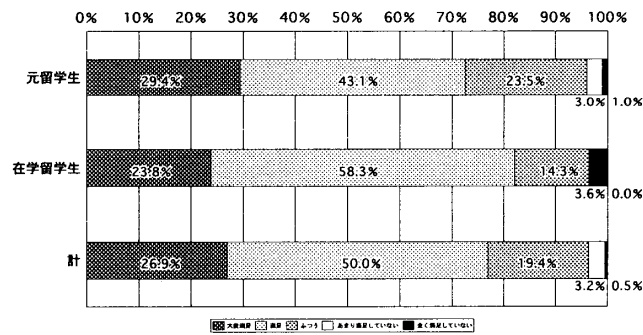


図4-3 教官とのコミュニケーションについての満足度

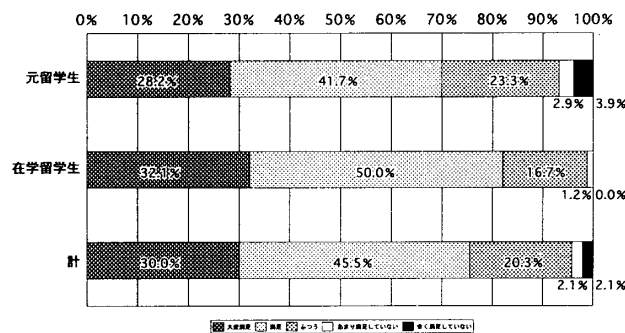


図4-4 事務職員の対応についての満足度

(C) 留学生に対するサービス

「留学生に対する大学のサービスについて満足しているか（していたか）」という質問に対しては、24.2%が「満足している」、50.5%が「満足している」と回答しており、74.7%が満足度を示している（図4-5）。《有効回答数186, $\chi^2=140.94, p<0.01$ 》

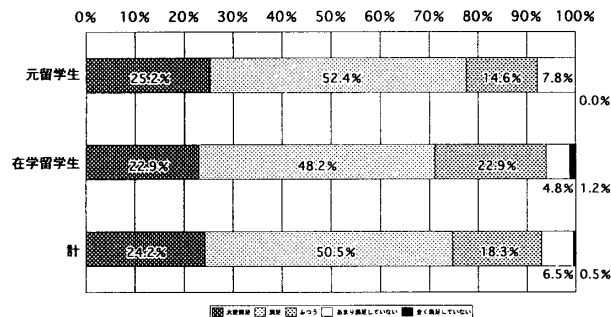


図4-5 留学生に対する大学のサービスについての満足度

3-6 交換留学生の満足度

交換留学生として琉球大学に留学した人(22人)及び現在在学中の交換留学生(10人)を対象に、自文化の紹介や異文化理解、本学教職員や学生との交流について質問したところ、表2-1~2-4のような結果となった。71.9%が「日本や沖縄の文化についての理解を深めた」と回答し、また93.8%が「自文化について日本人に紹介する機会があった」と回答していることから、交換留学生の留学経験が相互の異文化理解にもある程度貢献していることがわかった。

「交換留学を通して本学教官や学生と交流を深めることができたか」という質問に対しては、81.3%が「はい」と回答しており、また「所属大学の学生に琉球大学への留学を勧めるか」という質問に87.5%が勧めると回答している。このことから、交換留学生が琉球大学と協定大学との交流を深め、また架け橋となることが期待できる。

表2-1 「日本や沖縄の文化について理解を深めることができたか」

| | はい | どちらでもない | いいえ | 計 |
|---------|-----------|----------|---------|------------|
| | 人数(%) | 人数(%) | 人数(%) | 人数(%) |
| 元交換留学生 | 15 (68.2) | 6 (27.3) | 1 (4.5) | 22 (100.0) |
| 在学交換留学生 | 8 (80.0) | 2 (20.0) | 0 (0.0) | 10 (100.0) |
| 計 | 23 (71.9) | 8 (25.0) | 1 (3.1) | 32 (100.0) |

表2-2 「自分の国や文化について、日本人に紹介する機会があったか」

| | はい | いいえ | 計 |
|---------|-----------|----------|------------|
| | 人数(%) | 人数(%) | 人数(%) |
| 元交換留学生 | 21 (95.5) | 1 (4.5) | 22 (100.0) |
| 在学交換留学生 | 9 (90.0) | 1 (10.0) | 10 (100.0) |
| 計 | 30 (93.8) | 2 (6.2) | 32 (100.0) |

表2-3 「交換留学を通して本学教官や学生との交流を深めることができたか」

| | はい | どちらでもない | いいえ | 計 |
|---------|-----------|----------|----------|------------|
| | 人数(%) | 人数(%) | 人数(%) | 人数(%) |
| 元交換留学生 | 20 (90.9) | 2 (9.1) | 0 (0.0) | 22 (100.0) |
| 在学交換留学生 | 6 (60.0) | 3 (30.0) | 1 (10.0) | 10 (100.0) |
| 計 | 26 (81.3) | 5 (15.6) | 1 (3.1) | 32 (100.0) |

表2-4 「所属大学の学生に本学への留学を勧めるか」

| | はい | どちらでもない | いいえ | 計 |
|---------|-----------|----------|---------|------------|
| | 人数(%) | 人数(%) | 人数(%) | 人数(%) |
| 元交換留学生 | 21 (95.5) | 1 (4.5) | 0 (0.0) | 22 (100.0) |
| 在学交換留学生 | 7 (70.0) | 3 (30.0) | 0 (0.0) | 10 (100.0) |
| 計 | 28 (87.5) | 4 (12.5) | 0 (0.0) | 32 (100.0) |

3-7 現在の職業・希望の就職

元留学生103人の現在の職業や勤務地（国）に関する回答は、図5-1が示すとおりである。回答者によっては、複数の職業を持つ人や学業を継続しながら仕事をしている人が複数回答したため、延べ人数で示してある。

元留学生の中で、大学や官公庁、民間企業等において教育・研究職に就いている人、専門職に就いている人の延べ人数は41人となっており、専門性や研究を活かした留学の成果がある程度反映されていることが考えられる。

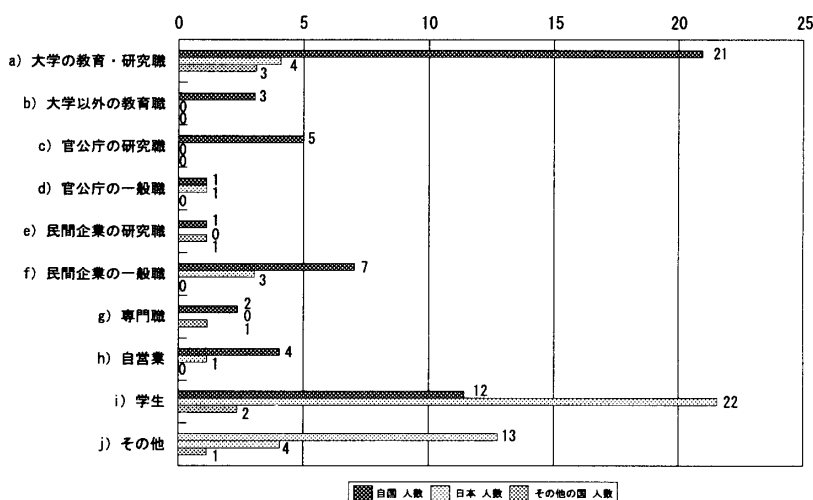


図5-1 現在の職業【元留学生対象】

また、在学留学生84人に将来希望する職業について質問したところ、大学や官公庁等の教育・研究職の希望がとても多いことがわかった。これは、留学で得た知識や研究経験を活かした就職への高い期待度の現れでもあると考えられる（図5-2）。

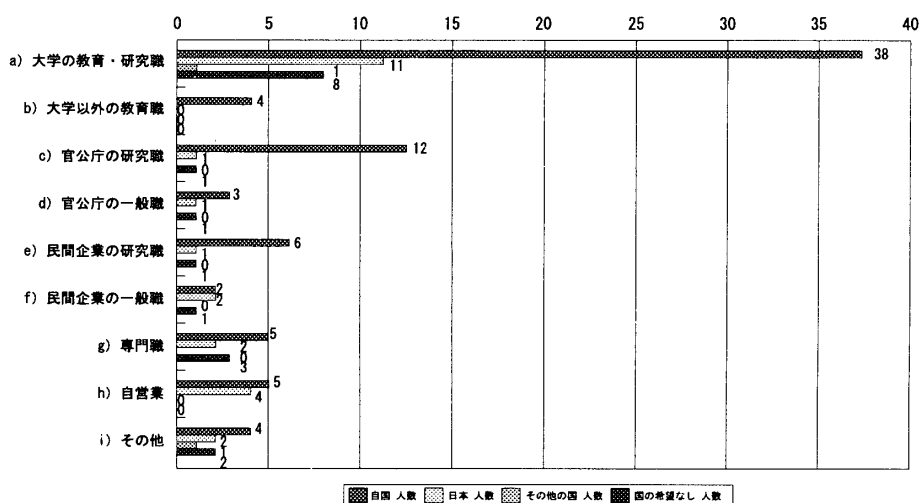


図5-2 就職の希望【在学留学生対象】

3-8 留学経験の効果・留学経験の期待度

元留学生を対象に「琉球大学での研究や留学経験がその後の仕事や進学に役に立ったと思うか」どうか質問したところ、57.0%が「大変役に立っている」、そして33.0%が「いづらか役に立っている」と回答している。この結果により、本学留学経験者の90.0%が留学の成果を実感していることが明らかになった（図6-1）。《有効回答数：100, $\chi^2=121.00$, $p<0.01$ 》

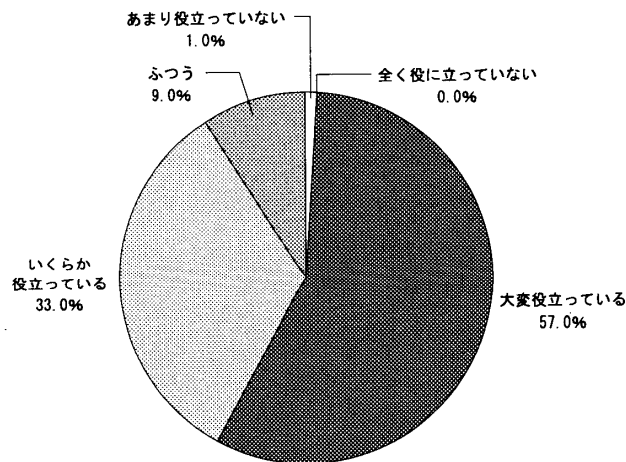


図6-1 留学の効果：本学での研究や留学経験が就職や進学に役に立ったか【元留学生対象】

また、在学留学生84人に「琉球大学での研究や留学経験が将来の仕事や進学に役に立つと思うか」と質問したところ、65.5%が「大変役に立つと思う」、28.6%が「役に立つと思う」と回答しており、留学の成果への期待度が高いことがわかる（図6-2）。《有効回答数84, $\chi^2=136.58$, $p<0.01$ 》

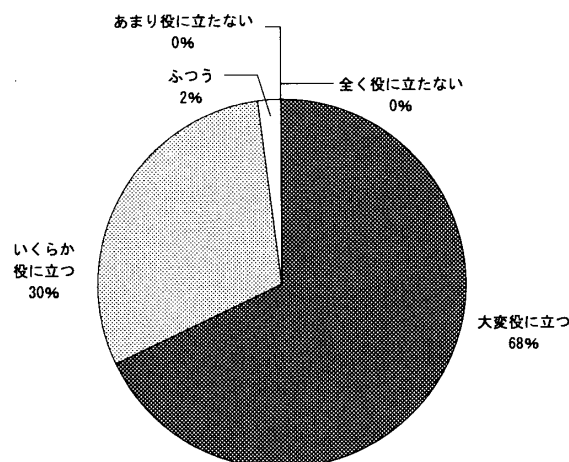


図6-2 留学の効果の期待：本学での研究や留学経験が将来の仕事や進学に役に立つと思うか【在籍留学生対象】

4. 考察及び今後の課題

今回の調査では、在学中の留学生だけではなく、本学での勉学・研究を終えた元留学生も対象としたので、留学生活や大学のサービス等についての満足度だけではなく、留学の効果について留学経験者がどのように感じているかについても把握する基礎資料を得ることができた。

琉球大学を選択した理由として、本来の目的である「勉学・研究」以外にも「沖縄の地理的・気候的・文化的環境」をあげている人が多数いた。今後さらに沖縄の地理的・歴史的特性を活かした研究を推進し、それをいかに広く留学希望者に伝え、受入れの拡大につなげるかが今後の課題でもあると言える。

留学中の困ったこととして、日本語が最も多くあげられていることから、今後は具体的にどのようなことが問題となっているのか調査し、問題解決のための対策について検討する必要がある。また、困ったときの相談相手としては、指導教官が最も多くあげられている。大学全体の支援体制としては、留学生に最も身近な指導教官の存在が大きいということは、きめ細やかなサポートができるということも言えるが、指導教官に過重な負担がかかっていることも懸念される。今後は、留学生センターが留学生への支援の他に、指導教官との連携をうまくとり、留学生センターを更に機能させ支援体制を拡充させることが必要である。

研究環境や留学生活の満足度、大学教職員の対応や留学生へのサービスへの満足度については、全般的に高い満足度が示される結果となり、大学における受入れ環境や留学生支援に対して一定の評価を得たと言える。ただし、回答率を考慮すると、必ずしも全体の意見を反映しているとは言えない。今後は、留学生の受入れ体制、支援活動を更に充実させ、留学生の満足度が更に高まるよう努力する必要がある。

今回のアンケート調査票に琉球大学への意見等について自由記入欄を設けたところ、元留学生からの意見で最も多かったのが「卒業した留学生と琉球大学をつなぐネットワークがほしい」というものだった。今回実施したアンケート調査そのものについても、「卒業生と大学との関係が継続されている」、「卒業生に意見を言う機会を与えてくれてうれしい」等好意的なものが多かった。琉球大学を卒業した留学生による同窓会は既に設立されているが、県内在住の卒業生が中心となって活動しているため、まだ認知度が低く県外あるいは国外の卒業生を含めた活動はほとんど行われていない。また、大学としても卒業生に対して実質的なアフターケアを行っていないのが現状である。卒業生は大学にとって重要なリソースであり、将来的には留学希望者との橋渡

し的な役割も期待できるため、大学としても積極的にネットワークを構築し、相互に有益な交流関係を継続することが今後の課題の1つである。

参考文献

- 岩男寿美子・萩原 滋 (1988) 『日本で学ぶ留学生』 勁草書房
- 遠藤 誉 (2002) 『帰国アジア元留学生の日欧米比較追跡調査による留学効果に関する研究』 平成11～13年度 科学研究費補助金 (基盤研究(A)(2)) 研究成果報告書
- 松下美智子・中崎崇志・林 康子・島 弘子・櫻田千采 (2000) 「帰国留学生の調査－外国人留学生受入れの改善を目指す基礎的調査－」 『金沢大学留学生センター紀要』 第3号, 85－98
- 琉球大学国際交流課資料 (1995) 『琉球大学に学ぶ留学生の生活状況に関するアンケート調査・報告書』
- 琉球大学自己評価委員会 (1998) 『琉球大学における教育活動の現状と問題点－調査結果報告－』

(琉球大学留学生センター)

The University Support System for International Students and Degree of Satisfaction of International Students toward Their Studies

KINJO, Kaori

Keyword : Support systems for international students, Former international students, Degrees of satisfaction, Effectiveness of studies in Japan

Abstract

The survey of former international students who studied at the University of the Ryukyus in the past five years as well as that of international students currently studying at the university were carried out in May 2003. Subjects were 103 former international students and 84 international students. The questionnaires included questions about reasons for selecting the university, problems during their studies at the university, the degrees of satisfaction concerning their studies at the university, support for international students provided by the university, and relationships with faculty and administrative members. In the questionnaire for former international students, questions about their occupations and effectiveness of their studies at the university were included.

The main purposes of this paper are 1) to examine services and support systems for international students provided by the university, 2) to analyze how much those international students are (were) satisfied with their research and student lives at the university, and 3) to discuss the possibilities of improving our services and support systems for international students.

(University of the Ryukyus)

帰国留学生アンケート

平成15年5月
留学生センター

この調査は、琉球大学で学ぶ外国人留学生によりよい学習環境とサービスを提供するための自己評価の資料とすることを目的としています。調査は無記名で行い、回答者の個人情報をご公表することは一切ありません。調査から得た情報は統計処理を行うための資料として活用します。調査票は電子メールアドレスにて提出できます。電子メールで返信した場合、電子メールアドレスをデータ資料に含めることはありません。みなさんのプライバシーは完全に守られますので、調査についてご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、調査票は回答をご記入のうえ、5月25日(日)までに留学生センターへ提出してください。(メールアドレス kaori@lab.u-ryukyuu.ac.jp Fax: 81-98-895-8102) このアンケート調査について質問がありましたら、留学生センター(金城かおり email: kaori@lab.u-ryukyuu.ac.jp 電話: 81-98-895-8116)まで気軽に問い合わせてください。

(調査票の記入について: 該当する情報を記入、あるいは答えの[]にxをつけてください。)

Q 1. 国籍 [] 性別 [] (a) 男 [] (b) 女 []

Q 3. 学部/研究科 []

Q 4. 学生身分 [] (a) 学部学生 [] (b) 大学院生 [] (c) 修士課程 () 博士課程 [] (d) 科目等履修生 []

Q 5. 琉球大学への留学の主な財源は何でしたか。(複数可)
[] (a) 日本政府奨学金 [] (b) 沖縄県費奨学金 [] (c) 自国政府奨学金 [] (d) 私費 [] (f) その他 ()

Q 6. あなたが琉球大学を選択した理由は何ですか。(複数可)
[] (a) 自分の関心のあることが勉強できるから [] (b) 研究条件(設備を含む)が整っているから [] (c) 沖縄の地理的、気候的または文化的環境がよかったから [] (d) 沖縄に関連した研究をしたかったから [] (e) 日本の文部科学省による配置だったから [] (f) 自国の指導教官や教授に留学を勧められたから [] (g) 琉球大学に友人・知人がいたから [] (h) その他 ()

Q 7. 琉球大学での勉学・研究のための環境に満足していませんか。
[] 5 [] 4 [] 3 [] 2 [] 1
大変満足 満足 ふつう あまり満足していない 全く満足していない

Q 8. 琉球大学での留学生生活全般について満足していませんか。
[] 5 [] 4 [] 3 [] 2 [] 1
大変満足 満足 ふつう あまり満足していない 全く満足していない

Q 9-1. 留学生生活の中で困ったことは何でしたか。(複数回答可)
[] (a) 勉学・研究 [] (b) 日本語能力 [] (c) 教官との関係 [] (d) 日本人学生との関係 [] (e) 経済的な問題 [] (f) 健康の問題 [] (g) 住居の問題 [] (h) 将来について(就職、進学) [] (i) 家族の問題 [] (j) 日本や沖縄の文化や習慣 [] (k) その他 ()

Q 9-2. 留学生生活で困ったとき、誰に相談しましたか。(複数回答可)
[] (a) 指導教官 [] (b) チューター [] (c) 留学生センター [] (d) 大学の教官・職員 [] (e) 同国の留学生 [] (f) 同国以外の留学生 [] (g) 日本人学生 [] (h) 家族 [] (i) その他 ()

Q 10-1. 教官とのコミュニケーションについて、満足していませんか。
[] 5 [] 4 [] 3 [] 2 [] 1
大変満足 満足 ふつう あまり満足していない 全く満足していない

Q 10-2. 事務職員の対応について、満足していませんか。
[] 5 [] 4 [] 3 [] 2 [] 1
大変満足 満足 ふつう あまり満足していない 全く満足していない

Q 10-3. 留学生に対する大学のサービスについて、満足していませんか。
[] 5 [] 4 [] 3 [] 2 [] 1
大変満足 満足 ふつう あまり満足していない 全く満足していない

Q 11. 現在の職業は何ですか。[] () 自国 () 日本 () その他(国)
[] (a) 大学の教育・研究職 [] (b) 大学以外の教育職 [] (c) 官公庁の研究職 [] (d) 官公庁の一般職 [] (e) 民間企業の研究職 [] (f) 民間企業の一般職 [] (g) 専門職(医者、弁護士、会計士等) [] (h) 自営業 [] (i) 学生 [] (j) その他 ()

Q 12. 琉球大学での研究や留学経験がその後の仕事や進学に役に立ったと思いますか。
[] 5 [] 4 [] 3 [] 2 [] 1
大変役に立った いくらか役に立った あまり役に立った 全く役に立った 役に立たなかった 立たなかった

Q 13. 琉球大学への意見やコメントがありましたら、自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。